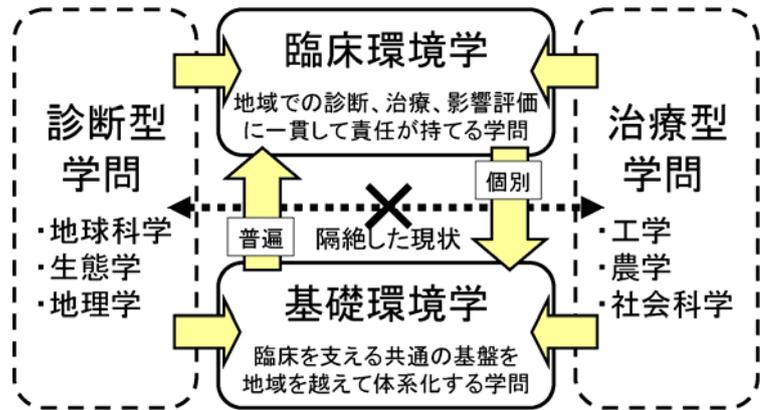


拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	名古屋大学
拠点のプログラム名称	地球学から基礎・臨床環境学への展開
中核となる専攻等名	環境学研究科地球環境科学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 安成 哲三 教授 外22名

【拠点形成の目的】

人間活動の影響による地球生命圏の変調を人体の病変に擬えるとき、環境学は病気に立ち向かう医学に相当する。しかし、これまでの環境学では、地球生命圏の仕組みやその人間社会との関係を解析する診断型分野（地球科学、生態学、地理学等）と環境問題の技術的・制度的対策を考案する治療型分野（工学・農学・社会科学等）が互いにほとんど独立に進められてきた。その結果、問題の現場において両分野が協力して診療に当たる、臨床医学に相当する体系的取り組みが欠如していた。



そこで本拠点では、国内外の様々な地域で、人間と自然の関係の持続可能性を脅かす病気の診断から、その適切な予防と治療、治療の副作用の予測や防止に至る一連の実践的取り組みを、臨床環境学として体系化する。一方、臨床環境学を支える基盤として、地球生命圏における人間社会の持続可能性を蝕む病理を総合的に考察し、それに対する技術的・制度的アプローチの有効性・問題点を整理して、普遍的・地球的な視座を提供するために、基礎環境学を構築する。臨床環境学と基礎環境学は、環境問題に立ち向かう上での車の両輪であると同時に、双方が、既存の環境学の諸分野を統合していく要となる。

臨床環境学の教育研究の確立のために、環境学研究科の持続性学プロジェクト、名古屋大学国際環境人材育成プログラム、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等の実績を活かして、臨床環境学研修を実施する。そこでは、対象地域を共有した多分野の教員・院生がチームを組み、地域住民や行政・NPO等とも協力して、現場での問題の特定、対策の立案、影響の予測等に取り組む教育研究連動型のプログラム(On-site Research Training: ORT)を軸として、アカデミックな研究者にとどまらず、行政、国際機関、NPO、地域事業体などを担う人材の育成をめざす。

基礎環境学の教育研究の基盤としては、地球生命圏を全体的に理解することに取り組み、最高の事後評価を得た21世紀COE「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」(SELIS-COE)の実績がある。これをもとに、地域間で共通の普遍性をもつ諸テーマに対応した、基礎環境学講究を開講する。その中では、工・農・社会科学分野のフィードバックを組み入れた、人間と自然の相互関係の仕組みについての体系的理解を進め、環境問題に関わる研究プロジェクトを先導できる研究者の育成をめざす。

【拠点形成計画の概要】

- 1) 統合環境学コース：環境学研究科と生命農学研究科にまたがる統合環境学コースを設置し、臨床環境学研修と基礎環境学講究の両者を必修として、複数指導教員制の教育により、地域での実践力とグローバルな思考力を併せ持つ人材を育成する。
- 2) 臨床環境学研修：国内外の様々な地域を対象に、多分野の院生と教員がチームを組み、地域の自然と社会の持続可能性を脅かす問題を特定し、住民や行政とも連携して、解決策の探索やそれらの実施に伴う影響の予測を行うプログラム(On-site Research Training: ORT)を実施する。院生は地域に密着した個人研究テーマを設定し、同一ORTチーム内の他分野の教員・院生とディスカッションを進める中で、分野横断型知識の重要性と個人研究テーマの相対的位置を認識することができる。
- 3) 基礎環境学講究：地域を超えて、グローバルな共通性・普遍性をもつ課題(地球温暖化や水資源問題など)を選定し、多分野の院生と教員がチームを作り、レビューと討論を通じて基礎環境学の体系を組み立てていく。成果を共同で執筆・編集したレポートにまとめる。このレポートは、拠点としてWebで公開しつつ、改良を重ね、最終的には日本語および英語による教科書に仕上げる。
- 4) 横断研究プログラム：院生・PD・若手研究者の発案による、他分野の学生・教員との連携研究に研究資金を競争的に配分し、基礎・臨床環境学の底辺の拡充とプロジェクトリーダーの育成を図る。
- 5) 国際連携プラットフォームの構築と強化：平成20年度に設置した名古屋大学国際環境人材育成センターを拠点として、国内及びアジア各国の大学・研究機関との協力ネットワークを強化し、ORTを国際展開して、地域に即した気候変動予測や脱温暖化都市づくり施策などを体系化し、その成果を世界に発信する。また、SELIS-COEの成果として平成19年度に発足した地球生命圏研究機構がコアとなり、国際的研究プログラムとの連携やリーダー的な海外研究者の招聘等を通じて、基礎・臨床環境学研究を推進する。
- 6) キャリアパス支援：アカデミックなポストだけではなく、ORTなどを生かした多様な進路の開拓に努める。修了生による自立した経営体としてのコンサルティング・ファーム設立を支援する。

機 関 名	名古屋大学
拠点のプログラム名称	地球学から基礎・臨床環境学への展開
<p>[採択理由]</p> <p>基礎・臨床の両面から総合的な環境学の構築を目指す世界的教育研究拠点として、将来構想が明確になっており、これまでの教育研究活動の実績も高く、計画全体が機動性を持った優れたプログラムであると評価できる。</p> <p>人材育成面においては、大学院学生の国際化教育に取り組んできた実績を有しており、人材育成目的としてあげた4つの力（専門力、俯瞰力、国際力、交渉力）の習得に対応して基礎学力と創造性を培うカリキュラムや、指導体制が計画されており、特にOn-site Research Trainingの取組みは高く評価できる。また、フィールドでの教育も想定した統合環境学コースの設置についても評価できる。</p> <p>研究活動面においては、地球科学、環境工学、社会工学分野における質の高い研究成果と有機的つながりを構築して、「診断型学問」と「治療型学問」をつなぐ「臨床環境学」という新領域の開拓を目指すという、極めて高い発展性が期待できる。特にアジア地域を中心とする研究ネットワークが長年にわたって構築されており、研究連携の実効性も期待できる。</p> <p>ただし、基礎・臨床環境学の統合化により、従来から追及されてきている「環境学」の展開に加えて何が新たに生み出されるのかについて、明確になっておらず、また、多くの現場を対象として、診断と治療の成果をどのように評価していくのかについては、更なる検討・工夫が必要である。</p>	